

## 新生児先天性横隔膜ヘルニア診療ガイドライン改訂における文献検索の系統性の検討

キーワード

診療ガイドライン 系統的文献検索

新生児先天性横隔膜ヘルニア

分野名：生命育成看護科学講座

指導教員：遠藤 誠之

学籍番号・氏名：05B17037・土居愛実

目的：

新生児先天性横隔膜ヘルニア(CDH)診療ガイドライン作成・改訂において文献検索の系統性がどのように確保されているのか明らかにすることを目的とした。

方法：

CDH 診療ガイドライン(ガイドライン)を対象とした。既刊のガイドライン第一版に加え、ガイドライン作成・改訂グループ会議への参加を通し、ガイドライン作成・改訂における文献検索・1次スクリーニング・2次スクリーニングの過程、文献検索の検索式、ガイドラインに記載されている事柄について実態を調査した。調査結果を基に、医学中央雑誌と Medline の2つの書誌データベースを用い、ガイドライン作成・改訂と同じ検索式で再検索を行い再現性の検証を行った。それに加えて、検索結果に CDH の分野で代表的な、ガイドライン作成・改訂グループのメンバーが執筆した文献が含まれるか確かめた。また、文献検索の系統的方法の7要因3条件(①全体性：網羅性、不偏性、②合理性：客観性、再現性、説明性、③外部性：透明性、操作性)を基に、各要素を満たしているかを検討した。

結果：

ガイドライン改訂作業は、専門家が連携を取りながら文献検索・評価を行っており、全ての工程を2名以上で行っていた。CDHにはMesh用語としてHernias, Diaphragmatic, Congenital、シソーラス用語として横隔膜ヘルニア-先天性があり、文献はこれらの索引を用いて主題検索が行われた。ガイドライン第一版には、目的やガイドラインがカバーする範囲だけでなく、作成メンバーや作成方法、文献の検索方法、文献の採否基準が明記されていた。また、再検索結果はガイドライン作成グループの検索結果を全て含んでおり、医中誌の検索結果29件のうち17件はガイドライン作成・改訂グループのメンバーが著者に含まれていた。

考察：

CDHに関連するMesh用語やシソーラス用語は論理的に整理されており、それらを用いた検索結果にCDHの分野で代表的な文献が含まれていることから、網羅性が担保されていると考えられる。また、専門家がチームで連携して作業しており不偏性と客観性、透明性を保っていると考えられる。利用した書誌データベースは操作性を担保しており、再検索結果から検索の再現性も明らかである。さらに、ガイドライン第一版の記載事項は説明性と透明性を保つ要素だと考えられる。一方で、系統性について確認が難しい部分も分かった。網羅的に検索できているか、偏りなく検索できているか確認する方法はなく、全体性は確認が難しいと考えられる。また、人間が検索を行う以上主観を排除できないため、客観性は完全には保てていない可能性があると考えられる。

結論：

本研究を通し、ガイドライン作成・改訂における文献検索の系統性をどのように担保しているかが明らかになった。元の分野の特徴を踏まえて系統性を担保すべく、書誌データベースの選択から作業過程、出版まで様々な工夫がなされていた。一方で、作業者の主観を完全には排除できない点や、書誌データベース内の検索過程といった不確かさを完全に考慮することは出来ないため、ガイドラインの作成・改訂には、対象疾患の専門家だけでなく、文献検索や統計の専門家を含めたチームが情報を共有しながら、系統的3要素を常に意識して検索・確認する必要がある。